

回				
覧				

次期役員選挙 立候補締め切り6月15日(金) *

立候補受付中： 立候補締め切りは6月15日に延期されました。

現在、中執立候補届け出 5名

活力ある執行体制を作るため、協力をお願いします。

=====

事務折衝報告：一時金、給与削減問題

6月12日、原子力科学研究所で、一時金を主な課題とする交渉が行われました。先の5月29日の団体交渉で機構は、6級までについて基準内賃金×1.9か月の昨年並みの回答をしていました。一方、7級については、昨年並みよりも削減することを匂わせる発言をしていました。

< 先の団体交渉で機構回答に間違いが >

機構(人事部長)： 5月29日の団体交渉時の回答書、別紙に誤りがあった。おわびし修正したい。先に提案していた、常勤職員の一時金に、一般職員と同様に人事評価を加えること、および、期間率を乗ずることの記述が抜けていた。大変申し訳ないが、修正提案をさせていただきます。

組合(委員長)： われわれとしては、常勤職員の一時金に人事評価を入れることには反対である。もともと低い処遇にしておいてさらに人事評価を加えることはいかがかと考えている。そういう点で、一度評価を入れない形で回答したものを、評価を入れることにするのは、改悪なので、本来あってはならないことだが、こちらのほうも、団体交渉当日、以前に提案を聞いていたにもかかわらず、問題の点を確認していなかったから、提案の後退というよりは、事務上のミスであろう。このことを、とやかに追及するつもりはない。今後気をつけてもらえばよい。

機構： 大変申し訳なかった。今後このようなことがないように、注意したい。

< 7級職員はどうしたいのか? >

組合： 先の一時金回答では周囲の厳しい状況の中、6級まで昨年並みの枠の回答をしたことは一定の評価をしている。7級はどうしたいのか、聞こう。

機構： 7級の支給枠は、まだ案が確定していないが、基準内かける1.8月ぐらいになるかとしている。

組合： 傾斜加算のところを変えると言うようなことを考えるかと予想したが、月数ですか。

機構： そうです。詳細はまだ提案できません。

組合： では、次回の交渉で聞きたい。

< 給与削減問題： 機構、7月から実施を提案 >

機構： 給与削減について、7月からの実施をお願いしたい。

労組： え!! 今はもう6月も半ば近くですよ。7月実施なんて無理でしょう。

機構： そこは、頻りに交渉するなどしてすすめたい。

労組： 聞いた提案は持ち帰るが……。金額の入った契約書を交わしている任期付研究員にもやるのか？ 理研などでは、使用者側が無理に進めようとして、だいたい反発があるようだ。無理に進めることは法的にもだいたい問題がある。外国人研究者などは、権利意識がだいたいしっかりしているので、大いに怒るだろう。訴訟など起こされたら使用者側が負けるのが見えているのでは？ 長く務める定年制の職員と違って、ほかの年の給与で緩和されることはないだろうから、ダメージも大きい。同じことは、任期付の常勤職員についてもいえる。

< 労組：任期付研究員については、実施をあきらめろ >

機構： 博士研究員については、先に機構側から出て、組合の指摘ですぐに撤回した通知のみで削減をするという話は、やりません。削減の契約変更をお願いして、年度内に実施するというのを考えましたが、拒否する人が出ると、本来同じ処遇の人に対して違いが出ることになるので、難しい。まだ決定ではないですが、博士研究員に対して年度内では実施をお願いしないことを検討中です。

労組： ぜひやめるように、また若い人や常勤職員など、もともと処遇が低いところに実施することもいがかかと思う。

** 中略：ほかの法人の状況など、情報交換 ****

機構、労組： 給与削減問題については、一時金がまとまった後、しっかり交渉しましょう。

***** 以下 略

今年の夏季休暇は7日、例年通り

機構から、本年度の夏季休暇は7月1日から9月30日までの間で計7日とするとの通知を受けました。

中央委員会を開催します。

日時： 6月20(水) 18:30~

場所： 原科研構内 原研労組事務所

議題： 6月期一時金、その他